

くらしに役立つ環境④

LED照明

環境政策課

☎224-5866

今、注目されているLED照明。白熱電球や蛍光灯と比べ、消費電力が少ない、寿命が長いなどの利点があります。その他、熱の放出が少なく室温の上昇を抑える、点灯直後に明るくなる、紫外線の放出が少なく虫が寄りにくい、ちらつきがないなどのメリットがあります。

40W型の白熱電球と比較すると、LED電球の消費電力は約10分の1です。また、使用できる時間は白熱電球の約40倍。そのため、交換する手間やコスト・廃棄物などが大幅に削減できます。

一方、LED照明は、1個当たりの単価が高いというデメリットもあります。しかし、購入・電力を合わせた経費は、交換後約19か月で白熱電球より安くなるという試算があり、長期的にはLED照明の方が安くなると言われています。

これらの特長を踏まえ、市では積極的に導入していくため、資源化センターの街路灯などにLED照明を設置しました。

また今年度は、川越駅東口公共地下駐車場で、LED照明への改修工事を予定しています。さらに今後、道路照明や防犯灯などへの導入も検討しています。



LEDの照明(資源化センター)

消費電力が少なく、二酸化炭素排出量も削減され、地球温暖化対策にもつながるLED照明。皆さんも買い換えの際には、検討してみませんか。

事例
地上デジタル放送に便乗した、次のような事例が発生しています。
○訪問販売業者が家に来て「アナログ放送が10年延長できる工事を三千円です」と勧誘された。
○業者が来て「地デジ普及のために五千円が必要。後日集金に来る」と説明された。
○地デジ関係者を名乗る人が来て「地デジ工事は九万円かかるが、今なら五万円です」と言われ、その場で現金を支払った。その後連絡がとれず、工事も行われていない。
地上アナログ放送終了の時期が近づき、

消費生活の豆知識

その7 地デジ放送便乗の悪質商法にあわないために

生活情報センター ☎226-7066 (相談専用 ☎226-7476)

今後、悪質商法が増加する恐れがあります。トラブルや被害に遭わないよう、十分に気をつけましょう。

消費者へのアドバイス

①地上アナログ放送は、平成23年7月24日にすべての放送が終了します。アナログ放送を延長できる工事はありません。

②行政機関などが個人宅を訪問し、工事を理由に金銭を要求することは一切ありません。

③地デジ対策のために工事が必要か、またどのような工事が必要かは一概には言えません。せかされても、慌てて契約や支払いをせず、現状を十分確認しましょう。



今回出かけたのは
「本川越駅」

明治28年に開業した、市内で最も古い駅。平成3年に駅ビルができました。

人込みをかき分け、駅前広場に出て振り返ると、駅ビルの壁にタイルで模様が描かれています。これは、蔵造りの町並みがモチーフになったものだとか。タイルの色は、蔵の黒しつুকいが日差しを浴

びたときのような、紫がかつた薄墨色。周囲を見回すと、交番の壁にも駅ビルと同じタイル。さらに、足元にも同系色のブロック。そういえば、ホームの柱や停車していた特急小江戸号も、紫がかつた薄墨色で統一されていました。蔵のまちなを表現した駅ビルと広場は「川越景観百選」に、小江戸号は「川越都市景観表彰」を受賞しています。同駅は、蔵造りの町並みへといざなう役目も担っています。

このシリーズでは、平成21年度川越市人権教育実践報告会で発表した小中学生の人権作文を紹介いたします。

一緒に生きていきたい②

古谷小学校 六年

そんな兄ですが、耳は、ぼくよりずっとずっとよく聞こえています。父が帰ってくると、だれよりも早く気づいてげん関の方を見えています。母は、家の前の砂利の音を聞き分けられていると言います。ぼくには全然聞き分けられないので、「すごい

なあ」と思います。

そんな兄と、ぼくとの毎日の生活はというと、兄が家にいるときには、トイレや食事の世話をしています。それは大変だけれども、「やりたくない」とか「面倒くさい」という気持ちはありません。兄は一生懸命がんばって、出来なかったことも、出来るようになってきているのだから、

自分はそれを助けたり支えたりしてあげたいと心から思っています。兄は、みんなより少し成長が早く歩けるようになったし、三日しか生きられないと言われていたのに、十四年間生きています。ぼくは、がんばっている兄はすごいと思います。

一緒に遊んだとき、笑っている兄。

好きな歌が流れたときなど、「アー」とか「ウーウー」とかで、のりのりで歌っている兄。そんな兄がぼくは好きです。

ぼくは、兄だけではなく、いろいろな人を助けてあげられるようになりたいと思っています。そして、将来は、介護福祉などの、人を助ける仕事をして、みんなに喜んでもらえるようになりたいです。

（終わり）

*ふりがなは広報室で付けました。

品格あるまちを目指して

市長からの手紙



変えます。ここを！ ⑥「公費を使った成果の共有」

行政には、さまざまな目的で行われる研修、視察、各種調査等があります。私は、それらの成果を、担当者や担当部所限りの財産とするのではなく、広く、すべての市職員、より多くの市民の皆さんと共有する仕組みを考えています。

例えば、市がこれまで職員を対象に行っている研修や勉強会などのうち、職員以外の人にも役立つ内容であり、会場などの諸条件が許されるものは、あらかじめお知らせし、一般公開すれば、講師料などの経費がより多くの方々にも活かされるというものです。前回このコーナーでお知らせした自治基本条例制定に関する勉強会を計画しています。これは、市職員に対し、大学教授などの専門家による講義（講演）を予定しているものですが、手始めに、それを担当以外の市職員、市民の皆さんも聴講できるようにしたいと思います。

視察については、これまで復命書（報告書）を作成し、庁内で回覧するだけでした。この形式では、視察の成果を知ることができるのは原則、視察した本人、同じ担当の職員、その上司に限られます。そこで、市民の皆さんに知っていただいた方がよいテーマや視察の内容については、報告会の実施を考えています。また、市のホームページや広報に視察概要として載せるなどの適切な手段により積極的に公開し、成果を共有したいと考えます。

視察等は、その報告書により、内容や成果を知ることができますが、報告書を閲覧申請して読むという作業は、市民の方々にとってはかなりハードルの高いことです。それに、活字よりも経験者の口頭での説明・報告の方が印象に残りやすく、市の行っていることに対する関心を高めていただける効果もあると考えます。また、社会の動きが激しいことから、新鮮なうちに成果を共有することも大切です。

公費を使った成果を、できる限り市民の皆さんに還元し、多くの方に活かしていただきたいと思います。

川越市長 川合善明